［JIA 建築家大会 2019 青森 in HIROSAKI］

津軽からの再生
生きつづける近代建築とまちづくり

2019年10月17日(木)／18日(金)／19日(土)

10月17日−19日に開催しました「JIA 建築家大会 2019 青森 in HIROSAKI」は、盛況のうちに閉幕しました。
ここに大会の模様をお届けします。ご参加、ご協力いただいたすべてのみなさま、ありがとうございました！

［大会概要］

大会名称 JIA 建築家大会 2019 青森 in HIROSAKI
大会テーマ 津軽からの再生 生きつづける近代建築とまちづくり
開催期間 2019年10月17日(木)−19日(土)
開催会場 弘前市民会館、弘前文化センター、アートホテル弘前シティ
イベント メインシンポジウム(基調講演Ⅰ・Ⅱ、パネルディスカッション)、大会式典、これからの建築とまちづくり、災害対策全国会議木造仮設住宅フォーラム、第13回建築家のあかりコンペ2019二次審査表彰式、JIA東北住宅大賞審査会、他、シンポジウム、各種展示、エクスカーション等
参加人数 602名(登録者)

主催：公益社団法人 日本建築家協会
後援：国土交通省、青森県、弘前市、弘前大学、八戸工業大学、八戸工業高等専門学校、(公社)日本建築士会連合会、(一社)日本建築士事務所協会連合会、(一社)日本建設業連合会、(一社)日本建築学会、(一社)青森県建築士会、(一社)青森県建築士事務所協会、(一社)日本建設業連合会東北支部、(一社)日本建築学会東北支部、NHK青森放送局、RAB青森放送、ATV青森テレビ、ABA青森朝日放送、東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、秋田魁新報社、岩手日報社、河北新報社、山形新聞・山形放送、福島民友新聞社、福島民報社、東北専門新聞連盟、日刊建設通信新聞東北支社、日刊建設工業新聞社東北支社、建設新聞社、FMアップルウェーブ
協賛：183社 | **公式サイト：**https://jia2019.hirosaki.com

大会委員長あいさつ

弘前大会を終えて

JIA 東北支部長・大会委員長
鈴木弘二 Koji SUZUKI

10月17日から19日にわたって青森県弘前市で開催された「JIA建築家大会2019青森in HIROSAKI」に全国から多くの会員の皆様にご参加いただき、さらに多大なるご支援・ご協賛をいただきましたことに、東北支部を代表し心より御礼申し上げます。
今大会は、弘前の前川建築をフォーカスし、地方における近代建築の保存再生をテーマとすることにより、近代建築さらにモダニズム建築の重要性を浮かび上がらせ、それらを上手く利活用してまちづくりを進める弘前のような地方都市やグローバルな地域での保存再生まちづくりの考え方・手法・課題等を、メインシンポジウムや多くの会議体を通し活発に議論することができました。その成果として、JIAの建築家は、今後ますますこのテーマに積極的に取り組み社会貢献する必要性があることを再認識されたと考えます。
また、3日間の大会とウエルカムパーティー、レセプションパーティー、前川ツアーなどを通し、沢山の方々に津軽の奥深い魅力を楽しんでいただいたと考えます。
本当にありがとうございました。

実行委員長あいさつ

城下町弘前から感謝をこめて

大会実行委員長 青森地域会会長
山本潤児 Junji YAMAMOTO

日本全国そして海外からも600名を超す建築家の皆さんに弘前市へお越しいただきました。東北支部青森地域会を代表して感謝申し上げます。前川建築8作品、城下町の風情、人々の営み、リンゴ、シードル等 青森の豊かさを味わっていただけましたでしょうか。約1年の時間をかけ準備して参りましたが、秋の紅葉の到来と共に、多くの建築家が弘前の街に押し寄せて下さいましたこと重ねて感謝申し上げます。特に近々全国大会が予定されている沖縄から多数参加いただきました(今度はこちらからお邪魔します)。大きなトラブルもなく笑顔で皆さんが帰路につかれたようで、これまでの準備が報われて良かったと感じております。
建築は使われ続けること、建築自身の役割を全うすることが大切だと私は思っています。前川建築を見ると背筋が伸びるような気がします。私たちは青森で頑張ります。これからも一緒に切磋琢磨し使われ続け、社会的責任を果たす建築を共に創造して参りましょう。
PS：パーティーの席で、大間のマグロに箸を伸ばす皆さんの姿とそのパワー忘れません(笑)　城下町弘前から感謝！

大会式典・レセプションパーティー

大会式典＝10月18日（金）13:15-14:15 /弘前市民会館大ホール　レセプションパーティー＝10月18日（金）19:00-21:00/アートホテル弘前シティ

前川建築の代表作である弘前市民会館で盛大に開催

本大会では、大会式典を前川建築の代表作である弘前市民会館で行うことができました。
弘前市民会館は弘前城のある弘前公園の一角に位置し、お城や岩木山をはじめ津軽藩城下町の風土を感じていただける良い機会となりました。レセプションパーティーは、弘前駅前のアートホテル弘前シティで総勢336名の参加者のもと盛大に行われました。

大会式典

式典の部では冒頭、主催者である六鹿正治会長の歓迎のあいさつに続いて、来賓あいさつ、名誉会員証の授与式、フェロー会員の証の授与式を行いました。

来賓あいさつ者：国土交通省大臣官房審議官 淡野博久 様｜青森県知事代理 副知事 青山祐治 様｜弘前市長 櫻田 宏 様｜AIAアメリカ建築家協会会長 ウイリアム・ベイツ 様

名誉会員授与者：長谷川逸子 様｜木原千利 様｜KIRA大韓建築士協会会長 ソク・ジョンフン 様｜KIA韓国建築家協会会長 カン・チュルヒ 様｜AIAアメリカ建築家協会会長 ウイリアム・ベイツ 様

フェロー会員の証授与者：太田安則 様｜久保寺敏郎 様｜栗生明 様｜寺山実 様｜夏目勝也 様｜東直彦 様｜上嶋晴久 様｜岡本隆 様｜長尾健 様｜八木康行 様｜吉田文男 様｜伊志嶺敏子 様｜亀谷清 様（代表授与）

レセプションパーティー

パーティーは津軽笛奏者 佐藤ぶん太さんと地元の子供達による弘前ねぷた祭りのおはやしからはじまり、来賓の皆様との歓談、会員間の談笑など笑顔溢れる中、津軽らしさを演出する津軽笛、三味線、太鼓が演奏されアンコールまで行われ、大いに盛り上がりました。あっと言う間の2時間でしたが閉会のあいさつでは山本博 大会副実行委員長の中締で幕を閉じました。おかげ様で大いに盛り上がるパーティーとなりました。

［進藤勝人］

ウエルカムパーティー

2019年10月17日（木）19:00-20:30 /弘前市民会館ホール棟ホワイエ

前川建築でおもてなし！

前川建築でおもてなしをとの思いから会場を弘前市民会館ホール棟ホワイエとしました。地元の食材を生かし、参加者全員に平等に行き渡ることを目指し紙製のバケットに食材（12種類）を料理して詰めてもらい、飲み物もテキカカシードルや豊盃など地元のお酒を準備し、弘前の味を楽しめるようにしました。
また、地元で活躍するピアニストTAMAMIさんに雰囲気を壊さない、心地良い演奏を届けていただきました。
約300人というたくさんの方々の参加、ありがとうございました！

［前田卓］

バンドパーティー

2019年10月17日（木）20:45-23:00 /Eat&Talk

熱狂の弘前の夜！

建築一筋の建築家とは思えないくらいに芸達者なバンドメンバー！四国・関東からのいつものバンドに加えて、近畿からの歌も聞くこともできました。そして冷静な建築家とは思えないほどに雄たけびを上げるオーディエンス！市民会館からタクシーを飛ばして、参加者約100名のイベントになりました。大変ありがとうございました！徳島大会から続いたバンドパーティー、次の大会も必ず続けようと誓い合って、杯を上げたのでした。

［ツーホ・クシーバ 佐久間ジョン］

SYMPOSIUM
メインシンポジウム

KEYNOTE SPEECH
基調講演

津軽からの再生
生きつづける近代建築とまちづくり

I

Archaeology of the Future
田根 剛 氏（Atelier Tane Architects）

エストニア国立博物館のコンペの受注、その後、人生観を大きく変えられるような住民、マスコミらの反対運動、苦難を乗り越えて完成するまでの話は、建築の世界に関わる者にとって、想像を超えるものがある。建築を創ることの難しさは、日々誰もが痛感していることだが、この建築は、田根氏の根底にある建築感が大きく影響している。それがコンペを勝ち取ったのであり、また、反対運動がおこった要因と考えられる。土地の歴史、記憶を真正面から捉え建築に昇華させる手法は、時として、住民の負の記憶をも引き出してしまう。氏は記憶についても問う。記憶というものの曖昧さ。氏の建築設計の姿勢は、歴史学者のように調査し、追求する。土地、地域の持つ意味と記憶の意味を解き明かしつつ、創る。記憶とは、過去のものではなく、未来に向けて建築をつくる思考の過程であるという説明は明快だ。
現在進行中の青森県弘前市の博物館改修設計にも話が及んだ。まだ具現化されていない設計思想の段階の建築を断片的に知ることができた。本大会の会場である弘前市は、歴史、記憶を大切にしてきた街。建築が完成し、氏の思想を間近で見る機会を楽しみにさせる講演だった。 ［茂木 聡］

II

世界遺産と近代建築
稲葉信子 氏（筑波大学世界遺産専攻教授）

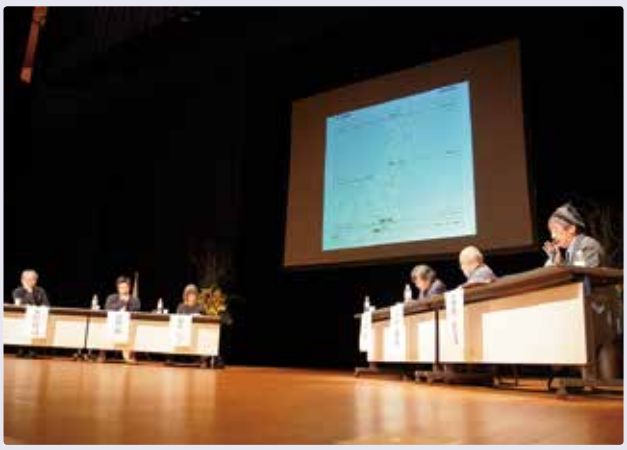
世界遺産と聞くと、あまりにもジャンルが広く、把握できない感がある。しかし、本講演は、その考えが間違いであることを知らされた。先生が専攻される建築に限定した話は、今までのイメージを大きく覆した。世界遺産となる建築は、地球上に膨大に存在する建築、我々が日々設計し、造り上げていく建築群の延長であり、それぞれの建築がもつ運命の中で、特異な存在と位置付けられた建築の頂点であること、その建築は、各界の賞等を受賞したような建築が対象なのではなく、生物で言えば、絶滅危惧種として扱われる存在であるということだった。顧みて、日本における世界遺産建築を考えてみると、様々な建築があり、自然遺産として指定された建築は、通常のそれとは、何か違っていることに気づき、自ずと理解できた。では、それぞれの頂点でありうる価値とは何か。それは想像するに、人々の記憶ではないだろうかと理解した。基調講演Ⅰで田根氏が指摘した記憶、そしてはからずも稲葉先生が指摘した記憶の延長、それらは、弘前市のまちづくりの現在を語っているように思えた。
今回の大会テーマ「津軽からの再生」は、未来そして過去を重ね合わせることにより、より鮮明となった。 ［茂木 聡］

SYMPOSIUM
メインシンポジウム

PANEL DISCUSSION
パネルディスカッション

2019年10月18日(金) 14:30-18:15 /弘前市民会館大ホール
基調講演1=14:35-15:35 | 基調講演2=15:40-16:40 | パネルディスカッション=16:50-18:15

コーディネーター 北原啓司(弘前大学大学院地域社会研究科長・教授)
パネラー 古谷誠章(建築家/早稲田大学教授)
橋本功(建築家/(株)前川建築設計事務所 所長)
志村直愛(東北芸術工科大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 教授)
コメンテーター 田根剛 | 稲葉信子



「津軽からの再生」をテーマに議論された。
冒頭、コーディネーターの北原先生から、「まとめることを考えず、自由に討議しよう」との提言があり、パネラー、コメンテーターがそれぞれ持論を展開した。
菊竹清訓氏設計の旧都城市民会館の解体と、大会会場である前川國男氏設計の弘前市民会館が大改修を行い生き残っているという建築の運命の違いはどこにあるのか。名建築、大切な建築が壊され続けている現状を考える時、研究者や建築家が役割を果たしているのか、地域性はあるのか疑問が呈された。建築は、使い続けることが大切で、建築家の役割は重大だが、大切な建築だと主張しても、一部の建築家が運動しているだけでは意味がない。行政や市民と認識を共有化しているのか。建築は、記憶の共有化がうまくいかないと、解体されることになる。財産としての価値観を与えることで、共有化のきっかけをつくることは可能だが、旧都城市民会館は、市民の記憶に残ることはできず、弘前市民会館は記憶に残ることができたことが、2つの名建築の運命を決めたとの意見も。
また、記憶には、温かい記憶と冷たい記憶がある。前者になるには建築が使い続けられていくことが前提であり、人々の関心を喚起できることが再確認された。
今日の高度に発達した通信網、交通網を最大限活用することで、人々の関心を引くことは可能だが、逆に全国が同一化されつつあることも事実で、難しい問題も同時に起こる。風土と継承という考え方がなくなると、建築の保存、再生はさらに難しくなるとの意見もあった。
JIA建築家大会が弘前市で行われたこと、そのこと自体がとても意味があることであり、会場に集まった方々も含め、皆で考えていくことが再確認されたディスカッションだった。 [茂木 聡]

シンポジウム これからの建築とまちづくり

2019年10月17日(木) 12:30-15:45 /弘前市民会館大会議室

「建築・まちづくり基本法」を多角的に議論

[**基調講演**]仙田満 [**プレゼンテーション**]北原啓司
[**パネルディスカッション**]**コーディネーター:**松本純一郎
パネラー:神田順、小島博仁、仲居浩二、連健夫、高橋直子

今回のシンポジウムでは、建築・都市分野の憲法ともいえる理念法である基本法の必要性について、理念とまちづくりの実例の両面から議論し、その制定に向けた活動を活性化するために情報共有と情報発信を行った。JIA元会長の仙田満氏が「建築・まちづくりと社会システム」をテーマに基調講演を行い、知的生産者の公共調達の問題点を指摘したうえで「基本法をつくり、平和で美しい環境価値豊かな建築・まちづくりを実現するべきだ」と訴えた。続いて北原啓司弘前大大学院教授が「古くて新しい弘前の建築・まちづくり」と題して講演、「日本は規制する法律は多いが、創造的なものを誘導する法律がない。創造的なものに対する法律をもっと考えていく時期に来ている」と指摘した。その後、松本をコーディネーターに、講演者にパネリスト4人を加え、基本法の必要性を議論した。

[松本純一郎]

災害対策全国会議 木造仮設住宅フォーラム

2019年10月17日(木) 16:00-18:45/弘前市民会館大会議室

東日本大震災後の福島で木造仮設住宅が生まれた背景と開いた可能性

(**1部**)**パネラー:**青井哲人、佐々木孝男、菅野日出喜、阿部直人 **司会:**高橋岳志
(**2部**)**パネラー:**高橋岳志、荒内要、原田展幸 **司会:**亀田進之助

1部では、東日本大震災以降の福島の仮設住宅や避難者の足取りをまとめた「福島アトラス02」をテキストとして、監修された青井氏から江戸時代から現代までの復興期の住環境の変遷と福島の仮設を紐解くポイントを、当時福島県職員だった佐々木氏からは地元公募・木造仮設が生まれた背景を、菅野氏からは当時の業界の状況と木造仮設での様々な協働をお話ししていただきました。そこから福島地域会の阿部氏を加え木造仮設の経験後のそれぞれの変化や福島が開いた可能性について議論しました。2部では、1部のテーマから引続きJIA若手会員により「地場産業と災害への対応」「仮設の日常ストック利用の可能性」「木造仮設再利用可能性」について議論されました。

[芳賀沼 整]

JIA東北住宅大賞2019 公開審査会

2019年10月17日(木)13:00-18:00 /弘前文化センター大会議室

全国大会を機に実施した「建築部門」と「住宅部門」の部門別審査

審査員:飯田善彦(飯田善彦建築工房代表/建築家)
渡邊研司(東海大学工学部建築学科教授/建築史家)

今年で13回目となるJIA東北住宅大賞は、JIA建築家大会のプログラムとして実施するにあたり、全国からの応募を募り大会を盛り上げようという趣旨で「建築部門」を新設し、「住宅部門」と併せて公開審査を行った。結果「建築部門」14作品、「住宅部門」18作品の応募があり、現地審査対象作品として「建築部門」2作品、「住宅部門」5作品が選出された。今年は応募数こそ少ないものの、各作品の質は高く、また、九州や中国支部からの応募もあり、盛会のうちに時間となった。東北住宅大賞の中の建築部門ということで懸念材料はあったが、結果的に違和感のない実りある審査会となった。今後、「建築部門」をどう扱うかが東北支部の課題となるだろう。

[田中直樹]

第13回建築家のあかりコンペ2019 公開2次審査・表彰式

2019年10月17日(木) 14:00-18:00/弘前文化センター 1F美術展示室

人に優しいランドスケープのあかり

審査委員長:長谷川逸子(建築家/長谷川逸子・建築計画工房)
審査委員:中村拓志(建築家/NAP建築設計事務所)、大草徹也(建築家/三菱地所設計)、小坂竜(クリエイティブディレクター/乃村工藝社A.N.D.)、武石正宣(ライティングディレクター/ICE都市環境照明研究所)、前芝辰二(大光電機代表取締役社長)

長谷川逸子審査委員長からのお題は、「人に優しいランドスケープのあかり」。散歩道や樹木を輝かしすぎて人工化してしまっているこれまでの屋外照明ではなく、人に優しい"あかり"の新しいデザイン。学生、若手、ベテラン、海外からも応募いただき97作品が集まり、2次審査では1次審査で選ばれた7作品が全員モックアップを携えての発表となりました。雨、水蒸気、草原といった自然を活かすもの、都市を対象としたものなど幅広い提案に対し活発な議論が丁寧に繰り広げられ、最優秀賞には電柱を利用した井上久実さんの案が選ばれました。

さて来年度はどんなあかりに出会えるのか、みなさまのご応募お待ちしております。

[JIAあかりコンペWG主査 大成優子]

前川國男の8つの建築模型展

2019年10月17日(木) 9:00－19日(土) 14:00 /弘前市民会館1階ロビー

前川建築の建設当初の姿が模型でよみがえる

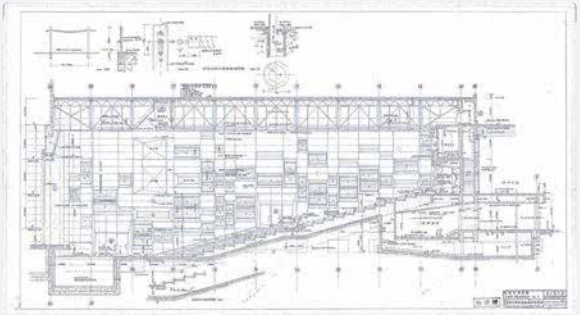
4月、東北地方の建築教育を担う7つの大学に、弘前市に現存する8つの前川建築について、その建設当初の姿の模型による再現を依頼した。各大学の教員、学生の皆様のご尽力で、10月16日には弘前市民会館のロビーの群青色が印象的な空間に、8つの美しい白い模型が展示された。原図から読み取られた前川建築は往時の純粋性、思想性を忠実に再現しており、日本のモダニズムの歴史の縮図とも言える系譜があらわれている。17日から19日の展示期間には、多くの大会参加者、来賓、さらには一般来館者の注目を浴びるとともに、新聞、テレビにも報道され、地方都市における近代建築の継続的な活用、その価値の再認識についての問題提起ともなった。展示終了後、一部の模型は地元の高等学校に教材として引き取られるなど、継続して利用されている。 [安田直民]

[**8つの建築リスト**]	模型作成担当
木村産業研究所	宮城学院女子大学 安田研究室
青森県立弘前中央高等学校 講堂	秋田県立大学 込山研究室
弘前市庁舎	東北大学 飛ヶ谷研究室
弘前市民会館	東北学院大学 崎山研究室
弘前市立病院	東北工業大学 工学部建築学科
弘前市立博物館	東北学院大学 櫻井研究室
弘前市 緑の相談所	日本大学工学部建築学科
	速水研究室、渡部研究室、市岡研究室
弘前市斎場	山形大学 永井研究室

前川國男の8つの建築 図集

2019年10月15日発行/著者:前川建築設計事務所

前川建築のオリジナルドローイングに見る近代日本の思想と技術



四谷の前川事務所で丁寧に保管された手描きの設計図面を拝見した。特注された数百枚のトレーシングペーパーに描かれた美しいドローイングには、数十年にわたる前川事務所の思念が詰まっているようであった。前川建築の模型作成のために拝借した図面は原図であり、中には現場の変更などによる生々しい朱書きまで散見された。大会実行委員会では、大変貴重なこの資料を多くの人の目に触れられるようにアーカイブできないだろうかという議論の中で、前川建築設計事務所のご協力のもと、これら設計図面を1/2に縮小した図集を刊行する運びとなった。図集はオリジナルのプロポーションを忠実に再現した変則的なフォーマットの図面を含む全94枚をセットとし、特別なインクにより青色で印刷している。一般流通の予定はないため、購入希望の方は直接、公益社団法人日本建築家協会東北支部へ連絡してほしい。 [安田直民]

[**連絡先**]

公益社団法人 日本建築家協会東北支部(JIA東北支部)
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-1 仙台セントラルビル4F
TEL: 022-225-1120
FAX: 022-213-2077
E-Mail: shibu@jia-tohoku.org

東北のまちづくり

2019年10月18日(金) 9:30-11:00 /弘前市民会館大ホール

山形地域会プログラム「商店街エリアマネジメント」
～今なぜ、七日町商店街が注目されるのか～

講師: 下田孝志(七日町商店街振興組合事務局長) **司会:** 小松正和

下田孝志氏を講師にお招きし、「自分のまちは自分たちで守る」という自助精神を基本に原点回帰した、民間主導の再開発などの実例より、地方都市における再開発とは? 今後必要なことは?など、今後のまちづくりについて考える場となった。 [小松正和]

2019年10月18日(金) 11:15-12:45 /弘前市民会館大ホール

福島地域会プログラム「原発災禍の被災者と建築」
～震災復興記憶の継承自然災害にどう向き合う～

パネラー: 阿部直人、早川真介、辺見美津男、高橋岳志、邉見啓明、中山武徳

福島地域会では、震災被害に加えて原発事故被害体験を通した復興への様々な活動報告と意見交換を行った。また台風19号による甚大な水害発生に鑑み、今後も発生し得る自然災害に建築家はどう向き合うべきかを話し合った。 [三瓶一壽]

JIA-KIT建築アーカイヴス会議シンポジウム「偉大な先輩建築家に学ぶVI」

2019年10月18日(金) 9:30-12:30/弘前市民会館大会議室

JIA-KIT 建築アーカイヴス「偉大な先輩建築家に学ぶVI」

パネラー: 白井原太、永井康雄、本間弘

趣旨説明・まとめ: 仙田満 | **司会:** 上浪寛

シリーズ6回目の本年は、東北に所縁のある3名の先達――白井晟一氏、堀江佐吉氏、本間利雄氏――に焦点を当て、それぞれの後継・研究者の方々にお話を伺った。

白井原太氏からは、祖父・白井晟一氏の作品と魂の継承活動について、秋田県湯沢市内における活動を軸に紹介いただいた。建築史家・永井康雄氏からは、戦災を免れた弘前に多く残る歴史的建造物の概説と、明治大正期における弘前建築の近代化の中心である堀江佐吉氏の仕事について解説いただいた。本間弘氏からは、本間利雄事務所の後継者として、本間利雄氏の思想と組織の継承と展開についてお話しいただいた。

その後、コメンテーターや会場を交えてのクロストークと、密度の濃い3時間となった。 [上垣内伸一]

JCCA×JIA協働シンポジウム「誰が景観を創るのか?」第13回

2019年10月18日(金) 9:30-12:30 /弘前市民会館中会議室

土木と建築の協働によって生み出された「津軽ダムのデザイン」の社会的価値を検証する

[**津軽ダムプロジェクト紹介**] 三浦義昭(国土交通省岩木川ダム統合管理事務所副所長)、井上大介(東京建設コンサルタント)

[**パネルディスカッション**] **コーディネーター:** 北原啓司(弘前大学大学院地域社会研究科長・教授) | **パネリスト:** 三浦龍児(西目屋村政策推進室室長)、井上大介(東京建設コンサルタント)、川村宣元(川村宣元建築設計事務所)、進藤勝人(八洲建築設計事務所)

津軽ダムは、そのデザインがもたらした社会的価値が高く評価されている。一貫したデザイン思想により纏められた美しい景観は人々を魅了し、ダムツーリズムにより人が時を過ごす場となった。パネルディスカッションでは、景観設計の過程、自然景観を取り込んだ施設群の設計思想、観光資源としての魅力づくりと地域経済の自立を目指したダムの活用等について語っていただいた。「この景観は子供たちに受け継ぐべき、生活や文化そのものだ」という言葉が印象的で、この景観に注がれた関係者の強い意志を感じた。美しい景観を皆の手で創り、守り、育てて行く義務が私たちにはある。当たり前であり最も大事なことを、感じさせられたシンポジウムであった。 [都市・まちづくり委員会委員長 近藤崇]

JIA再生部会 シンポジウム 建物を使い続けるため

2019年10月18日(金) 10:00-12:30 /弘前市民会館小会議室

近現代建築「保存」活用への課題

パネリスト: 渡邉研司(東海大学教授・DOCOMOMO Japan代表)、鯵坂 徹(鹿児島大学教授)、山本大輔(島根県職員)

モデレーター: 大橋智子(再生部会部会長)

渡邉氏は「戦後モダンハウジングのリユースに見るイギリス的保存手法と理念」と題しパブリックハウジングの改修を紹介し、モダニズム建築保存の問いかけを行った。鯵坂氏は「都城市民会館(菊竹清訓設計)解体から学ぶべきこと」と題しその設計理念と保存活動の経緯を説明し、問題提起を行った。山本氏は島根県が財政的な理由から維持する菊竹清訓と安田臣設計の建築を「価値の発見」「愛着」を見いだすことで発展的保全していることを「山陰の菊竹建築あれこれ～「名建築」を所有するということ～」と題して発表。建物を長く使い続けるにはこれまでと違った関わりが必要なのではないかという私たちの問いに対し、「保存」への示唆を与えられた。

[JIA再生部会部会長 大橋智子]

海外建築家協会会長国際会議2019

2019年10月18日(金) 9:30-11:30/アートホテル弘前シティ

International Presidents' Forum 2019 "SDGs and Architects"

パネリスト: William Bates/AIA会長、Thana Chirapiwat/ASA副会長、Seok Jung Hoon/KIRA会長、Kang Chul Hee/KIA会長、Tatjana Joksimovic/SA会長、Sathirut Tandanand/ARCASIA元会長、六鹿正治/JIA会長 | **モデレーター:** 岩村和夫/UIA SDGs委員

今年のIPFはJIAによる『SDGs建築ガイド日本版』の刊行を機に、〈SDGsと建築家〉をテーマとして開催された。六鹿会長による同ガイド刊行の経緯と趣旨、今後の展望についての説明の後、各会長がそれぞれ、AIA:"Big Change"に向かうAIAの姿勢、ASA:タイ国および協会のSDGsへの取り組み、KIRA:協会の取り組みと事例紹介、KIA:低環境負荷建築の認証制度、SA:協会、他団体、同国政府及びEUのポリシー、ARCASIA:技術偏重によらない文化的価値を意識した将来の都市像、についてプレゼンテーションを行った。

最後はモデレーターによりバックキャスティングという意識の必要性を共有し会議を終えた。 [国際担当理事:高階澄人]

前川建築ツアー

2019年10月17日(木)・18日(金)・19日(土) 8:30-17:00/弘前市内

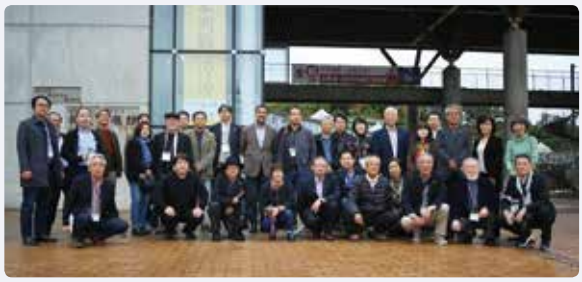
前川國男の建築、それと弘前市民の愛にふれた旅

弘前市民会館から斎場まで7つの前川作品を1日で見て回る、弘前ならではの建築ツアーには全国大会の期間中3日間で80名を超す方々が参加しました。市民ガイドとして「前川國男の建物を大切にする会」の葛西ひろみさんが随行、最終日の19日には前川事務所の橋本所長にガイドを務めていただくという贅沢な布陣。全国から参加されたみなさんも「この時代の前川の特徴は……」とご自身の分析を披露されたり、前川の建物がことごとく市民に愛される弘前の状況をみて「幸せな街だねぇ」とつぶやいてみたり。作品ひとつひとつじっくりと、前川の空間やディテールの変遷をたどりながら建築家のみなさんとめぐる弘前の街は、いつもより輝いているように思えるのでした。 [蟻塚学]

エクスカーション

2019年10月19日(土)/青森市周辺

青森市周辺ツアー



AIAウイリアム・ベイツ会長をはじめ韓国(KIRA・KIA)、タイ(ASA)の海外より8名の方、国内各地より29名の方に参加していただき盛大なツアーとなりました。

青い森アリーナ・陸上競技場・ねぶたの家ワラッセ、そして青森県立美術館・三内丸山遺跡と、あいにく小雨の中での慌ただしい見学となってしまいましたが、再度お越しの際にはゆっくりと、満喫できることを願っております。 [花田 猛]

エクスカーション

2019年10月19日(土)/十和田市周辺

十和田建築ツアー

比較的、九州・沖縄地方からの参加者が多かった十和田ツアーは、黒石市にある菊竹清訓設計の「ほるぷ子ども館」を皮切りにスタート。小雨の降るあいにくの天気の中、八甲田越えのルート上、紅葉を迎えた北国の絶景をバスから眺めながら十和田市へ向かう。馬肉のバラ焼、馬肉鍋、馬刺し定食の昼食を済ませ、待望の西沢立衛設計の「十和田市現代美術館」へ。官庁街通りに面して開かれた美術館とともに、対面するアート広場の多彩な美術品がアートのまちを彩る。続いて安藤忠雄設計の「十和田市立図書館」、隈研吾設計の「市民交流プラザ・トワーレ」を見学。工事監理に関わった2人の随行者による、勘所を押さえた経過説明が好評なツアーとなった。 [高谷健司]

全国地域会長会議

2019年10月17日(木) 15:00-18:30 /弘前文化センター 中会議室

全国地域会間の情報共有･意見交換、そして交流

JIA建築家大会恒例イベントとなった「全国地域会長会議」を、多くの出席者のもと本年も開催致しました。全国単一組織であるJIA、そのJIAを支える屋台骨である各地の地域会が全国から参集し、事業・活動について情報共有、意見交換を行う貴重な場とすることができました。
当日は、少しでも多くの方に発言いただきながら情報を共有するために、ワールドカフェ方式を採用し、各地での取り組みの中から抽出した主要な6テーマごとのテーブルを設けました。おかげ様で非常に活発な発表・議論・意見交換がなされ、皆様、「参加して良かった。地域会に戻って参考にしていきます」との好評をいただきました。
合わせて、各地域会の"事業・活動情報一覧データシート(毎年更新)"をお伝えし、その価値を理解いただくと同時に情報提供のお願いをしました。また、皆さんに活用いただけるようJIA HPでの公開を計画中である旨、報告致しました。 [全国地域会長会議 特別担当 鈴木利美]

JIA保存再生会議年次フォーラム

2019年10月17日(木) 15:00-18:30 /弘前文化センター第3会議室

JIA保存再生会議年次フォーラム報告

通常はWebで会議を行っている保存再生会議であるが、大会では例年年次フォーラムを開催し、リアルで顔を合わせることで、各支部や修復塾など、関連組織間の情報や認識の共有を、より深いレベルで図っている。本年は開催地弘前市の文化財課から、同市の文化財行政に関するお話を伺うとともに、近年課題となっている、近現代建築物の保存・再生に関し、集中的に意見交換を行う時間を設けたが、トピックとして、九州支部の大牟田市庁舎本館の保存問題への取り組みがあげられる。会議に地元放送局の取材カメラが入るなど市民の関心も高く、歴史的建造物の問題へのコミットを通じ、建築に関する視点、価値観を市民と共有していく可能性を感じさせるものであった。

[JIA保存再生会議議長 金山眞人]

法人協力会員サミット

2019年10月18日(金) 10:00-12:00 /弘前文化センター 中会議室

令和時代1回目の協力会員サミット

JIA建築家大会の中で毎回行われております法人協力会員サミットですが、私自身も今までサミットに数回参加させていただき全国の協力会員が行っている活動を知ることができる大変貴重な機会の場でした。今回、東北支部主催のこのサミットも全国の協力会員の活動を、参加された協力会員の皆様に伝えることができるように考えておりましたが、短い時間のため、すべての支部の活動の詳細に触れることができませんでした。しかし、次回への協力会員サミットにつなげることができたと考えております。最後にお忙しい折、弘前まで多くの全国の協力会員の方に参加していただき、大変ありがとうございました。

[JIA東北支部 法人協力会代表 サンポット㈱仙台営業所 山本博]

JIA環境会議

2019年10月18日(金) 9:30-12:30 /弘前文化センター第3会議室

「記憶を繋ぐ」

第1部を各支部、各WGの活動報告に充て、会員に広く環境会議の普段の活動を知ってもらった。
第2部は今回のメインである「記憶を繋ぐ」をテーマに、小堀哲夫氏、関谷昌人氏、新居照和氏、針生承一氏、宮田多津夫氏、田根 剛氏が登壇し、自然、文化、街並み、建築など人間の脳裏に浮かぶ環境すべてについて登壇者よりプレゼンテーションをしてもらい、今後の建築のあり方、環境会議の進むべき方向性を考える会議となるようなプログラムとした。
多くの一般市民の方々も参加していた。
登壇者がスライドを準備してそれぞれの記憶を繋ぐ建築の話をした後に、クロストークをしていく流れで、各登壇者テーマは多種多様でも、根本的な核となる部分が同じである、そんな座談会であった。

[稲見公介]